

2019年度 事業報告書

(自2019年4月1日 至2020年3月31日)

| 1

1】事業方針

一般社団法人日本スポーツウエルネス吹矢協会は、設立20周年を契機に今まで蓄積されてきた組織的・人的な資産を基に次の30周年に向けて活動を進めて来た。

特にウエルネスの意味する健康スポーツとしての位置づけを明確にし、国際的な活動も含めて事業を展開した。

具体的には20周年記念式典で掲げた3つの目標、すなわち①国際団体の設立 ②新しいスポーツウエルネス吹矢への挑戦 ③スポーツウエルネス吹矢と健康に関する学術的な研究等を中心に活動を進めた。

国際化を進めるため、国際団体設立準備室を設置して活動を開始する一方、電子的の試作や競技方法を見直すとともに、スポーツウエルネス吹矢の学術的な解明についても担当を定めて進めて来た。

また、次世代を意識した持続可能な組織作りを目的に、各ブロック、県協会の自主活動を促進するとともに協会本部との密接な連携体制を整備してきた。

対外的な活動としては日本スポーツ協会への加盟推進、国体デモンストレーションスポーツやねりんピック、レクリエーション大会への参加を促進することで知名度の向上に努めた。

2】設立20周年記念事業の各部業務への反映

1≫普及戦略

1>3年間で20,000人の新会員増と500地域支部の新設について

(1)各ブロックの事業計画に反映して活動した結果、新会員は18,000人、支部の新設は300で推移した。引き続きブロック長会議を通じて普及に繋げていく。

2>組織体制の整備

(1)協会本部—ブロック—県協会—(市協会)—支部連携体制の確立

定例開催されるブロック長会議等の情報を、ブロック会議を通じて支部長迄確実に共有される組織体系の充実を図ってきた。

(2)ブロック・県協会の構成見直しによる体制の充実

[テキストを入力してください]

協会本部と同一の組織を構成し、業務の明確化とともに次世代人材の育成に対応してきた。

3> 中村理事長杯大会の開催

協会本部主催大会を見直したうえで新設した。(4>項参照)

2>> 指導者育成体制の整備促進

1> 上級公認指導員・公認指導員資格認定試験制度の実施

(1) 第35版の規定に基づき正しい運用の確認と周知徹底を図った。

2> 上級公認指導員・公認指導員資格更新講習会制度の実施

(1) 有効期限と更新講習会時期との連動を進め更新講習受講率を向上した。

(2) 更新講習会未受講者に対する受講の促進を図った。

3> 認定試験制度への3分ルール導入

実技試験に「3分以内に5本吹き1ラウンドとする」文言を追記した。

4> Aライセンス制度の改定

維持費について廃止とした。

5> 各ブロックおよび県協会に教育部の設置

任期満了に伴う見直しと不足部署の補充について促進して来た。

6> 段級位認定試験の改定

(1) 六・七段位制度の円滑な実施を進めて来た。

(2) 35版の規定改定に伴う制度の完全施行を推進した。

3>> 広報室による広報戦略の実施

1> 「フキヤット」(キャラクターの着ぐるみ)の効果的運用を定着した。

・ゆるキャラグランプリへ出場(3年連続:順位は65位)。

2> 都道府県広報委員による情報の受発信体制の定着を促進して来た。

3> 会報200号よりタイトルデザインを改訂した。

3】事業内容

本年度の事業内容は以下の通り。

1>> 国際団体の設立

1> 国際団体設立準備室の設置により、従来の国際部を包含して海外支部の増設に加え、今後の体制作りに着手した。

具体的には20ヶ国に海外支部が設立された段階を設立時期と定め、計画的に進めて来た。

[テキストを入力してください]

結果として従来の4ヶ国に加え3ヶ国(フィンランド、モンゴル、台湾)に支部を増設し、その他に

- (1) 将来の国際団体のあり方についての骨格作り。
- (2) 従来の国際部業務を併合し、海外支部の支援体制を確立。
 - ① 四半期毎のレポート提出を定着させ、サポートの要点を明確化。
 - ② ニュージーランド総支部を訪問、会員への指導と意見交換、支部対抗戦を実施。
- (3) ハワイ、タイ、マレーシア、ニュージーランド、フィンランド等、各支部の運営方法についての見直し。
- (4) 諸規定、マニュアルの外語化、用具の取扱い等の規定を整備。
広報室と協調して重要諸規定を記載した英文オフィシャルガイドブック2019年度版を発行。
併せて用具メーカーとも協力して英文カタログの作成等を進めて来た。

2≫名称変更および協会本部移転後の業務に関するスムーズな移行

- 1> 諸規定および関連表示物の変更を実施した。
- 2> 本部移転先における業務の早期立ち上げを促進した。

3≫スポーツウエルネス吹矢の普及・振興

1> 新規入会者

- (1) 本年度の新規入会者4,300名(達成率:74%)。
- (2) 2、3月の新型コロナウイルス感染対策の影響もあり、普及活動が停滞した。

2> 特別支援地域の選定と支援

(1) 特別支援地域

- ① 国体デモスポ開催県 : 茨城県(障がい者大会は台風により中止)
- ② 全国レクリエーション大会開催県: 兵庫県
- ③ ねんりんピック開催県 : 岐阜県(2020.11)、神奈川県(2021)

- (2) 東北大震災・熊本地震・広島水害等の被災会員への支援を継続。

3> 地方組織との緊密な情報交換体制の確立

(1) 全国ブロック長会議の定例開催

本部との情報交換の緊密化を目的に定例開催(6月、11月、2月)実施し
ブロック事業計画と課題の共有により普及活動に繋げてきた。

(2) ブロック・県会長会議の実施

当該ブロックにおける県会長会議を開催し、全国ブロック長会議の内容を伝えることで協会本部・ブロック・県協会の意思統一を図る体制を定着してきた。

(3) 各県総会の実施

[テキストを入力してください]

県会長はブロック会議での諸事案について支部長に伝える事により、
会員への徹底を図る体制が定着した。

(4) 市協会の設立推進

組織拡充策の一つとして市協会の設立を促進した。当該市区町村の
スポーツ協会（旧体育協会）、レクリエーション協会、地方自治体、
学校等との緊密な連携を図る事を目的に進めた。（新設数：9協会）

4 > 技能の向上

(1) 各県協会別指導者講習会の実施

公認指導員・上級公認指導員の資格更新講習会の県協会別開催により、
地域に密着した指導員育成体制の整備を図って来た。講習会未受講者
に対する受講管理システムも整備した。

(2) 段位認定試験制度の定着

- ① 六段位認定試験制度の地域開催も可として、会員の昇段意欲に応える
体制を整えた。
 - ② 本年度の段・級位認定者は以下の通り。
 - ① 級位認定者 :6, 213 名 (達成率:68%)
 - ② 段位認定者 :6, 224 名 (達成率:78%)
 - ③ ジュニア段級位認定者 : 322 名 (達成率:160%)
- 合 計 12, 842 名 (前年予測比73%)

5 > 地域支部設立数

本年度の地域支部設立数:83 支部 (国内79、国外4) (達成率:69%)。

6 > 新しいスポーツウエルネス吹矢の研究

- (1) 得点を自動的に解析・表示する電子的の開発を継続。
- (2) 障がいのある方にも楽しめる的研究についても継続。

7 > スポーツウエルネス吹矢に対する学術的な研究

体制を学術研究部から教育部に引き継ぎ推進。

- (1) スポーツウエルネス吹矢が健康に与える効果の検証。
- (2) スポーツウエルネス吹矢の学術的な解析
 - ・矢の飛び方と呼吸法の解析
 - ・的と筒の見方による命中度の向上解析
 - ・腹式呼吸の効果 etc

8 > 幅広い年代への普及

大学への導入を目的に「大学推進委員会:委員長 山田副理事長」を設置して
促進してきた。

- (1) 第2回関西学生対抗選手権大会(6校:80人参加)実施
- (2) クラブ活動にも発展中

[テキストを入力してください]

9>スポーツウエルネス吹矢 NO1記録登録

普及振興促進事業のひとつとして継続実施。(登録数:10件)

10>(公財)日本スポーツ協会への加盟促進

加盟上申書を提出のうえ継続して折衝中。

4≫大会及び競技会の開催

1>基本方針

(1)大会の性格を明確にして以下の6種を開催した。

- ① 級位の会員も参加可能な大会(全日本団体選手権大会)
* 設立20周年記念事業における理事長杯大会の位置づけ
- ② 地方選抜競技者による全日本選手権大会
- ③ 公募によるオープン大会(全国オープン大会)
- ④ 三段位以上の競技者による青柳杯争奪大会(青柳杯大会)
- ⑤ 障がい者による大会(全国障がい者大会)
- ⑥ ジュニア会員による大会(全国ジュニア競技会)

2>開催日と競技方法(開催順)

(1)第1回全日本スポーツウエルネス吹矢団体対抗選手権大会

- ① 開催日 : 2019年6月27日(木)
- ② 会場 : 東京・墨田区「墨田区総合体育館」
- ③ 参加者 : 60チーム、300名

(2)第13回スポーツウエルネス吹矢青柳杯大会

- ① 上位8名の決勝ラウンドにより青柳杯の争奪を競う。
- ② 開催日 : 2019年6月28日(金)
- ③ 会場 : 東京・墨田区「墨田区総合体育館」
- ④ 参加者 : 467名

(3)第10回スポーツウエルネス吹矢ジュニア競技会

- ① 開催日 : 2019年8月3日(土)
- ② 会場 : 東京都足立区立千寿本町小学校体育
- ③ 参加者 : 60名

(4)第12回全国障がい者スポーツウエルネス吹矢大会

- ① 開催日 : 2019年10月12日(土) 茨城県龍ヶ崎市たつのこアリーナ
台風19号のため中止

↓

- ① 開催日 : 2019年12月 8日(日)
- ② 会場 : 東京都港区スポーツセンター
- ③ 参加者 : 130名

(5)第8回全日本スポーツウエルネス吹矢選手権大会

[テキストを入力してください]

- ① 開催日 : 2019年11月6日(水)
- ② 会場 : 東京・墨田区「墨田区総合体育館」
- ③ 参加者 : 286名

(6)第1回全国スポーツウエルネス吹矢オープン大会

- ① 開催日 : 2019年11月7日(木)
- ② 会場 : 東京・墨田区「墨田区総合体育館」
- ③ 参加者 : 800名

5 ≫ 上級公認指導員・公認指導員の認定及び養成

1 > 上級を含む公認指導員資格認定試験

- 1) 本年度の資格認定試験については年2回、全国で開催し、認定数は413名。
(前年比 84%)
- 2) 県協会開催により公認指導員を目指す会員が、より多くの受験機会を得られるとともに地域に密着した育成体制を整備した。

2 > ライセンス制度の定着化

- 1) 資格認定試験を8月に実施、取得者は次の通り。
(取得者:4名) * 3月予定の試験は新型コロナウイルス感染対策のため中止。

6 ≫ 各部事業報告

1 > 組織部

1) 活動方針

- (1) 20周年記念事業小委員会(普及戦略)の実務について実施した。
- (2) 普及拡大を目的にブロック・県協会との緊密な情報交換を進めた。

2) 活動内容

- (1) 全国ブロック長会議を年3回計画し開催した。
 - ① ブロック別事業計画による課題把握と対応策を共有してきた。
 - ② 全国組織体系の整備により、ブロッカー協会本部との情報共有が図れる体制作りを進めた。
 - ③ 退会の実態把握と阻止方法を継続的に策定して来た。

(2) ブロック組織支援の促進

- ① 地域活動活性化の支援。(体験会への用具貸し出し、大会賞品の支援)
- ② 国体デモンストレーションスポーツウエルネス吹矢大会、ねんりんピック、レクリエーション大会開催県への支援。
- ③ 体験用具の整備および貸出し他。

(3) 教室・カルチャー教室の運営

- ① 協会本部教室及び全国カルチャー教室について企画運用を進めた。

[テキストを入力してください]

② 移転を契機に教室環境の見直しを進めて来た。

2>教育部

1) 活動方針

設立20周年記念事業小委員会（指導者育成）事業を実行した。

特に上級公認指導員、公認指導員に対して必要情報を提供し指導、育成を促進して来た。

2) 活動内容

(1) 協会本部の関連部署やブロック・県協会との情報共有と連携強化を促進した。

(2) 教育部会議の開催

① 全国ブロック長会議（年3回）を通じ情報を共有化。

② 県教育部長会議の開催（ブロック教育部が担当）

全国ブロック長会議を受けて行われるブロック県会長会議に併せて都道府県協会にて開催する体制を整えた。

③ 首都圏教育部会議の開催（組織局教育部）1回/2か月実施。

首都圏（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）及び茨城県、群馬県、栃木県の各教育部役員にて実施。

（*議事録を全国の教育部役員に配布した）

(3) 各種試験・講習会の主管

① 上級公認指導員資格認定試験（7月・2月）

② 公認指導員資格認定試験（6月・11月）

③ ライセンス審査委員会が実施するAライセンス認定試験（8月）
（2020.3については新型コロナウイルス感染対策のため中止）

④ ブロック・都道府県単位で行われる上級公認指導員・公認指導員に対する講習会の担当

⑤ 市協会長への五段審査権付与講習会の実施

⑥ 都道府県の地域限定指導員の講習会実施支援

(4) 全国ブロック・都道府県の教育部の全役員に対する教育の実施。

(5) 各県協会・市協会で、開催される講習会等への支援。

(6) 各種資格認定試験や講習会内容の見直しとマニュアルの改定・作成。

(7) 各種資格認定試験や講習会などで使用される学科試験問題や審査基準の改定・作成。

(8) 「スポーツウエルネス吹矢の学術的な解明について」内容の検討に着手した。

3>審判部

1) 活動方針

全国審判体制の整備とともに審判技術と競技ルールの一統化を図るとともに

[テキストを入力してください]

正確な審判業務を遂行できる人材育成を推進してきた。

2)活動内容

- (1) 全国審判員体制、技術、ルールの統一とともに情報管理体制を確立した。
 - ① 全国ブロックへの体制整備の促進。(整備済み:12ブロック)
 - ② 県協会として必要人材の把握と審判員講習会を促進。(実施済み県協会:23)
 - ③ 全国ブロック大会の実情調査。
- (2) 規定・運営マニュアルの見直しと改訂
 - ① 競技者兼任審判体制の研究とマニュアルへの反映。(完成に向け順次編集予定)
 - ② 記述内容の見直しを実施。
- (3) 協会主催の大会への対応強化、ミスの原因究明と全国へ報告
 - ① 審判予定表による各大会の状況把握。
 - ② ミスの原因分析(年齢との関係等)と対応策の検討→審判員教育マニュアルへ反映(年齢より身体的な要因が大)。
- (4) 定期増員計画と人材育成
 - ① 人材の整備に加え質の向上対策を進めた。(審判員講習)
 - ② 資格更新講習の定例化(1~2月)と基本動作講習の強化。(首都圏協会:実施済み)
 - ③ 月例の審判部運営委員会に加え大会直前の審判会議を開催して情報の共有を図った。(定例:第二火曜日)
 - ④ 東京地区の副部長および推進委員の増員。(合計3名)

4>競技部

1)活動方針

協会本部主催の大会について、「参加する」「観る」「支える」の観点から、大会のレベルアップと、人材の育成を図って来た。

特に「観る」観点については、大会の運営を見直し「観ても楽しい大会・競技会」の検討を進め、試行して来た。

一方で級位から高段位の会員が幅広く参加できる大会種別を整理のうえ、大会の規模・運営について見直しを行った。

その他、各部主管・地方大会等について要請に応じた支援を行ってきた。

2)活動内容

- (1) 全日本選手権大会の選抜クラスの充実
選抜のための地方大会の拡充ともに、全日本レベルの大会への参加資格の見直しを進めた。
- (2) 参加申込受付体制の充実
全国からの参加希望に対する受付体制を充実し、参加希望に公平に

[テキストを入力してください]

応えられるシステムを構築した。

- (3) 「観ても面白い大会」とするため各種施策の試行を重ねてきた。
 - ① 得点表示「的」の開発を継続
 - ② 大会集計システムの改善
 - ③ 競技途中での暫定順位の発表の定着
 - ④ 決勝戦における基本動作得点付加の定着
- (4) 次世代人材の継続的な育成を進めた。
- (5) 競技会等の準備・運営のノウハウの展開を図った。
- (6) 大会運営方法について競技委員のレベルアップを進めた。
- (7) 地方大会に対する準備・運営を支援した。

5>障がい者サポート部

1) 活動方針

スポーツウエルネス吹矢が全国障がい者スポーツ大会(国体)の正式種目に採用されることを最終目標として全国に普及拡大を図って来た。

(10/12 茨城国体、全国障がい者大会は台風のため中止)

2) 活動内容

- (1) 障がい者サポート公認指導員の増員を図ると共に、全国に障がい者指導体制の充実を進めた。(指導員増：63名)
また 県協会に障がい者サポート部を順次設置するとともに、障がい者サポート公認指導員認定試験、3年次資格更新講習会も実施可能な体制作りを推進した。(設置数：26県協会)
- (2) 各都道府県の「都道府県障がい者スポーツ協会」への加盟を促進した。
(加盟数：7件：東京、愛知、三重、滋賀、香川、宮城、群馬県協会)
- (3) 県協会に障がい者スポーツウエルネス吹矢大会の開催を促進した。
(実施：4/20 滋賀、5/26 鹿児島、9/8 福井：会報より抽出)
- (4) 全国障がい者スポーツウエルネス吹矢大会に審判部、競技部に協力を要請して連携体制を定着した。
- (5) 次の専門チームを設置した。
 - ① 大会企画運営専門担当
 - ② 障がい者サポート公認指導員育成専門担当
 - ③ 介護予防専門担当
- (6) 以下の行事を実施。
 - ① 認知症予防講座(11月12日於協会本部：参加者40人)
「認知症予防につなげるために」
東京都健康長寿医療センター 高齢者健康増進事業支援室
研究部長 大淵修一氏

[テキストを入力してください]

- ② 障がい者サポート公認指導員資格認定試験を実施。
 - (7月6日：新規8名、3年次講習：13名)
 - (2020年2月8日：新規21名、3年次講習：13名)

6>ジュニア育成部

1) 活動方針

- (1) ブロック・県協会にジュニア育成部設置を継続要請。
- (2) ジュニア会員の技術的な強化と活動の充実。
- (3) 学校教育への参入について立案し実行。

2) 活動内容

- (1) 第11回ジュニア競技会の開催（全国規模の大会とした）
- (2) ブロック・県協会にジュニア育成部の設置を要請し全国的な活動体制整備を促進した。（設置数：20県協会）
- (3) 公認指導員・上級公認指導員の資格更新講習会に提供できるジュニア指導要領の作成。
- (4) ジュニア会員が楽しめ、普及につながる競技の考案。
- (5) 全国記録会の参加者を増やし技能向上を図ってきた。
- (6) 小学校等に対し体験教室併催型の競技会、交流会などを企画した。
(実施：10校)
- (7) 体験会企画を教育委員会や学校にPRし、学校教育への参入の機会を拡大。（実施：8校）

7>学術研究部

「スポーツウエルネス吹矢と健康に関する学術的な研究」について教育部に移管して閉部とする。

8>国際部

1) 活動方針

国際団体設立準備室に移設し海外支部の支援を引き続き策定して来た。

2) 活動内容

- (1) タイ・バンコクオーキッド支部、マレーシア・KLサザンクロス支部、ニュージーランド総支部、フィンランド等について情報交換を密に支援方法を策定した。
- (2) 海外支部に対し正しい基本動作の周知を実施して来た。
英語版オフィシャルガイドブック 2019年度版を作成のうえ、海外支部に基本動作の再確認を促した。

9>広報室

1) 活動方針

設立20周年記念事業小委員会（広報）事業の実務を担当、「スポーツ

[テキストを入力してください]

「ウェルネス吹矢」名称の早期定着を促進して来た。
また介護予防につながる健康スポーツの一方、国体デモスポに参加する競技スポーツとしての両面に効果的な広報活動を展開して来た。

2) 活動内容

- (1) 会報の発行回数の見直し
年9回（合併号3回含む）発行。
効果的な発行回数と内容を精査し、紙面のリニューアルを実施。
- (2) 公式SNS（フェイスブック／ツイッター／YOU TUBE／LINE）
の本格稼働によるインターネット情報発信機能の強化。
- (3) 「キャラクター『フキヤット』」の活用
各種行事と連動し、「スポーツウェルネス吹矢」の認知向上、PRに繋げた。
- (4) 吹矢応援団の拡大と外部ネットワークの構築
スポーツウェルネス吹矢の支援に協力的な個人・企業（や団体）開拓と賛助を促進して来た。
- (5) 普及促進ツールの見直し
名称変更に伴い各種ツールのリニューアル。
- (6) その他
特定支援地域、行政や学校等団体への継続的な普及・広報活動実施。

10>その他、目的を達成するために必要な事業

1) 組織管理部

- (1) 会員ファーストの視点で管理業務の見直しと精度の向上に努めた。
- (2) 名称変更へのスムーズな対応を念頭にシステムの見直し・改善を実施。
- (3) 業務運営上のミス“0”件を目標に活動してきた。
（運用面・ツール面共に必要な見直し・改良を適宜実施）
- (4) 体制強化（次世代人材の育成）
現行の制度や運用方法について常に改善意識を持たせて育成。
- (5) 情報提供依頼に対する精度とスピード強化。
各県組織や各部からの情報提供依頼に対し、レスポンスのスピードUPを念頭に要望以上の内容の提供を行うとともに会員管理DBについても改善を随時実施してきた。

2) 総務部

- (1) 理事会・社員総会の確実な実施。
- (2) 適正な会計処理および決算処理並びに予算編成の実施。
- (3) 規定改定を織り込んだ運営諸規定集35版および運営マニュアル集

[テキストを入力してください]

35版（A4サイズ）を対象者に送付。

- (4) 実／予管理の精度向上により経営上の問題点の早期把握に努めた。
- (5) 本部移転のスムーズな完了と新事務所の環境整備を推進した。

以上